

大震災・復興ニュース(第15報)

平成23年7月28日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

水産庁第2次補正予算説明会の開催について

7月25日(月)宮城県漁業協同組合塩釜総合支所において、水産庁主催による第2次補正予算説明会が開催された。説明会は県下全域を対象に行われ、水産庁から加工流通課の竹田課長や裁培養殖課の早乙女課長補佐らが出席し、県、市町、水産加工及び漁業協同組合等の関係者が約200名が参加した。

説明会では水産庁から水産業共同利用施設復旧支援事業の第2次補正予算による拡充内容等が説明され、参加者から補助事業の対象範囲等の質問や、予算額が少ないのでは等との意見が出され、今回の予算は応急的なもので本復旧は第3次補正予算を予定している等との意見交換が行われた。

<第2次補正予算の主な内容>

- ・ 予算額は193億円で第1次補正予算18億円の約10倍に増加
- ・ 製氷機器類や冷却装置、養殖関連施設等、対象範囲の拡大及び修繕費の追加
- ・ 漁業生産のための仮設倉庫等整備やリース料の追加

宮城県漁業協同組合総代会の開催について

7月27日(水)宮城県漁業協同組合塩釜総合支所において、宮城県漁業協同組合平成23年度通常総代会が開催された。平成22年度事業報告、平成23年度事業計画、役員候補等が原案どおり承認された他、栽培漁業の復興支援にかかる特別決議がなされた。



総代会での役員選任の様子

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

管理漁港及び漁場の啓開(けいかい)作業状況

- ・ 県管理漁港の航路・泊地内の漁具や沈没した船舶・自動車等支障物の撤去作業はすべて作業終了。
- ・ 漁場の啓開作業は、5月23日から松島湾で着手し、潮位の関係から七ヶ浜沖と並行して2台の起重機船で引き続き作業を行っている。

バックホウ台船は、6月14日から松島湾の東名地区で引き続き作業を行っている。

また、仙台湾漁場では、6月28日から起重機船にて支障物撤去作業を行っている。

水陸両用バックホウについては、松島湾内の撤去作業を終了し、7月25日から鳥の海での撤去作業を開始した。

漁港の応急復旧状況

- ・荒浜漁港の海岸堤防の応急工事については、阿武隈川河口から南側約900m区間の1次応急工事作業は完了しているが、南側から工事用道路を500m、海側へ並行する仮堤防を300m（高さ4m）施工した。引き続き本格的な台風シーズン前の完成を目指し作業中である。
- ・荒浜漁港南導流堤基部の決壊箇所の閉塞工事については、現在、吉田排水機場から北側に仮設道路工事を施工中で全体約500m区間を施工中であるが、土のう（1tパック）積が2段まで終了し、工事用道路の嵩上げを施工している。



仮堤防盛土状況

災害査定の実施状況

- ・二次査定については8月8日から8月12日までの予定。
- ・申請箇所は、塩釜漁港で10箇所、桂島漁港で9箇所、計19箇所です。

<トピックス>

災害復興に向けた第二回打ち合わせ会開催

7月20日（水）に当部会議室において、県漁協復興対策室の担当者及び管内の漁協支所長さん等が集まり、漁港漁場の啓開作業状況、共同利用する漁船の建造・漁船登録に向けた事務処理、各支所、漁協の取り組みなどについて、報告と意見交換が行われた。

今後手続きを急ぐ事務や民間からの支援情報等も共有することができ、各支所・漁協からは種ガキの原盤投入を中心に浜作業が活発化してきている様子を伺うことができた。

浦戸支所青年部でホヤ人工採卵報告会開催

7月21日（木）に浦戸支所において、昨年末から今年初めにかけて支所青年部と水産技術総合センターが行ったホヤ人工採卵の結果報告会が開催され、支所からは青年部員3名と千葉運営委員長が出席、センター普及指導チーム三浦技術次長、田代技術主幹から結果の報告を受けた。

年明けに水温が大幅に下がったことからボイラーで加温を行い、合計4,588千個の卵を回収。仮殖した採苗器は津波の被害を受けながらも255本が残存し、採苗器への着生は1.2個/cmの結果を得た。

今後、規模拡大や加温しない方法も検討していくこととなった。



報告会の様子